

ERIC 通信 第 14 号

2002 年 10 月 1 日発行

ERIC が目指す民主的な生涯学習社会に向けて

事務局長 角田尚子

ERIC の事務局長も早いもので 9 年目を向かえています。その間、参加型手法ということでは、総務庁「省資源・省エネルギー」、建設省「公園でできる環境教育」、総務庁「人権教育ワークショップ 気づきから行動へ」などテーマも広がり、PRA、フューチャーサーチ会議、コンフリクト・リゾリューションなど方法論も広がってきました。日本では参加型についての理論と実践のもっとも蓄積のある団体だと自負しています。設立以来 13 年、参加型手法にこだわってきましたが、「参加」というのは民主主義の基本であり、わたしたちが追及してきたものは、民主主義の実践であり、また、民主的スキルのトレーニングなのだということが、やっと腑に落ちるようになりました。これから、その理念と実践を環境・人権を含む国際理解教育の分野、学校教育の分野、社会的合意形成の分野で広げていきたいと願っています。ぜひ、いっしょに進めましょう。

新刊「いっしょに考えて! 人権」「いっしょにすすめよう! 人権」もよろしく。

<WHAT'S NEW>

■ERIC 通信が完全無料になりました。

ERIC 通信ができて約十年。社会環境・情報環境の変化にともない従来紙面で発行していた本誌を、二回の発行に削減したことは前回お知らせいたしましたが、来年度より無料で郵送する事になりました。詳細な内容・ホットな情報は、ホームページまたはメールマガジンで迅速にみなさまにお届けいたします。合わせてご利用いただけたら幸いです。(広報担当 直井)

■主催研修のお知らせ

「木と学ぼう(PLT)ファシリテーター養成講座:10/12(土)~13日(日)

身近な公園や学校の校庭などを利用して一本の木からできるアクティビティーがたくさんあります。

参加型でアクティビティーを経験し、その応用を考えます。

■人権教育ファシリテーターハンドブックの「発展編」・「実践編」が完成人権テキスト完成

●「いっしょに考えて! 人権(発展編)」角田尚子・ERIC 国際理解教育センター著 2,100 円

●「いっしょにすすめよう! 人権(実践編)」角田尚子・ERIC 国際理解教育センター著 2,100 円

ご注文の方法などは別紙をご覧ください。発送の開始は 11 月の下旬より行います。

詳しくは同封のの折り込みをご参照ください。

プログラム提供部

テキスト普及部

レッスンバンク

■栄光セミナーのお知らせ

「総合的な学習のコーディネーション能力を高める」講座

ERIC の角田尚子が連続でファシリテーターを勤める総合学習講座の第 4 回目(最終)。ぜひこの機会に受講ください。

・会場 中央区銀座 5 丁目 10 番 2 号銀座中央ビル 3F「NAVIO」・主催:栄光教育文化研究会 協力:ERIC 国際理解教育センター

・参加費:5000 円(2 日間)

問い合わせは直接 (株)栄光セミナー事業部 担当:三木 〒東京都中央区銀座 2-6-7 明治屋銀座ビル 6F TEL:03-5159-0428 FAX:03-5159-9430

☆いままでのセミナー内容は、レッスンバンクに収録されています。

第一回→11・3「総合的な学習」をいかに教えるか

第二回→11・14「総合的な学習」におけるライフスキルも指導

■「アクティビティ事典 2002 年度版」完成!

アクティビティ事典の最新版ができました。2002 年度版では、前年度版では実現ができなかった、アクティビティのより具体的な内容を盛り込むことができました。発送の開始は 11 月以降となります。ご注文をおまちしております。

■レッスンバンクの購入方法・振込口座が変更になりました。

新規お振込み口座:00160-3-547794

加入者名:ERIC

ERIC 国際理解教育センター

〒114-0013 東京都北区東田端 1-14-1 岩瀬ビル

プログラム提供部 03-3800-9415 テキスト普及部・一般 03-3800-9416 FAX03-3800-9414

Eメール eric-net@try-net.or.jp ホームページ <http://www.try-net.or.jp/~eric-net/>

グローバルセミナー2002 報告

「生涯学習社会の実現に向けて」

6月1日(土)、2日(日)の2日間、文京区民センター、シビックセンターにて、ERIC 運営委員をはじめ、たくさんの方のご協力のもと、開催しました。参加者はスタッフも含め25名ほど。わきあいあいとした雰囲気の中で行なわれました。

第13回目を迎えて

一 「生涯学習社会の実現に向けて」

過去13回をふりかえってみると、初期のグローバルセミナーは、海外の教育実践に学び、その蓄積を成果として出版してきたERICの歴史と変遷を表しています。ここ数年では、自分たちの蓄積と成果を出していこうという機運が生まれ、ERICが「学びつづける社会」と呼び、その実現を目指してきた「生涯学習社会」を取り上げることとなりました。

わたしたちは変化の多い時代に生きています。学齢期には習わなかったような新たな課題に日々直面する時代です。複雑で地球規模の課題を暴力を介さず、平和的に解決する方法をどのように学ぶことができるか、それが今回のチャレンジの内容でした。

民主的スキルを考える

民主的で平和な社会をめざそうね、と口で言うのは簡単ですが、具体的に何をすることで達成できるのでしょうか。

ERICでは参加型手法を通して、民主的な社会をつくらうという試みを続けてきましたが、それは教育の営みにとどまらず、市民社会を形成しようと活動する人々によって広く担われてきました。それらの実践に「民主的スキル」という新たな光を当てて再整理することで、より多様で、より具体的な行動目標が見えてくるのではないのでしょうか。そして、スキルであるからには、繰り返すことによって伸ばしていくことができるのです。

「民主的スキル」という言葉は、初めてで戸惑った方も多くでしょう。ERICでも試験的に使い始めたばかりで、ファシリテーターにとってもチャレンジです。

話題提供やワークショップへの協力者、そして参加者の皆さんは、実践の場や方法は違っても「民主的な社会」のビジョンを持って活動してきた方々です。

わたしたちはこれまでどんな「民主的スキル」を身につけてきたのか、そして今後は？

第1日目は、総合的な学習を生涯学習の視点から捉えなおし、学校教育、社会教育、市民団体がこれから身につけよう、育てようとしている「民主的スキル」とはどのようなものかを考えました。具体的に「生涯学習社会」と「学びつづける社会」や「社会的スキル」と「民主的スキル」を比較し深めたグループもありました。

第二日目は、環境やジェンダーの分野で活動してきた方々と、テーマについて過去の共有、現状分析、そして2030年にはこうあってほしいという未来のシナリオを作成し、そのために身につけたい民主的スキルを考えました。

日常からの実践を目指して

2日間の共同作業の中で、いろんな気づきがありました。自分たちが行ってきた身近な行動、これからしようとしていたことも民主的な社会につながる「民主的スキル」だったのではないかと。みんなでいっしょに考えた「民主的スキル」は2日間で150を超えました。それぞれが考える「民主的スキル」は場面によって異なるでしょうし、もっとたくさんでてくるでしょう。

大切なことは、未来のビジョンを共有した上で、①参加者や学習者といっしょに身につけたい「民主的スキル」を考える。②「民主的スキル」を身につけるための行動計画を立てる。③いっしょに評価し、改善する方法を考える。この一連の作業を行なうプロセスそのものが、民主的であるといえないでしょうか。



2002 年度主催研修 国際理解 for PEACE STEP1「グローバルな視野から捉える」 報告

2002 年度は 2 日間の講座と 3 日間の講座を組み合わせ実施しています。

第一回 「国際理解教育基礎」 講座

■日時：6月22日(土)～23日(日)

■場所：ERIC ■参加者：12名

■目標：この研修は「気づきのためのアクティビティ」を使ってプログラムを創り、進行することができるプログラム・ファシリテーター養成を目的として行なわれました。

■ねらい：民主的スキルを手がかりに国際理解教育の目的、内容、方法を理解する。指導者にとっての民主的スキルとしてアクティビティの指導と開発を学ぶ。
※「平和」をめざす「民主的スキルや世界を読み解くための「データ」の扱いのチャレンジ」ができた講座でした。

【セッション1】 ■安心感のある場づくり ■国際理解の目的 ■平和とは何か ■民主的スキルとは	【セッション4】 ■データとは何か ■データを読む力を伸ばすアクティビティ体験
【セッション2】 ■気づきのアクティビティの体験と理解 ・気づきのアクティビティの意義、ポイント ・気づきのアクティビティで伸ばせる民主的スキル	【セッション5】 ■データリテラシーを考える ■データリテラシーを伸ばすアクティビティをつくる
【セッション3】 ■築きの手法でアクティビティづくり ・伝えたい概念を築きの手法で深める	【セッション6】 ■発表、実践 ■2日間のふりかえり

第二回 「グローバルな課題と地域をつなぐ」講座

■日時：8月21日(水)～23日(金)

■場所：早稲田奉仕園 ■参加者：13名

■目標：この研修では参加を市民社会形成のプロセスとして捉え、さまざまなセクターの対等な参加による社会的合意形成および行動を進める、プロセス・ファシリテーター養成でした。

■ねらい：間近に迫っていたヨハネスブルグサミットに関連して「持続可能な開発・社会」をテーマに、行動を進めていくプロセス・ファシリテーターとして必要な要素は何かを考える。

※参加者の積極的な疑問やファシリテーターを目指す姿勢が、プロセス・ファシリテーターの要素を引き出した研修でした。

【セッション1】 <過去の共有> ■導入 ■安心感のある場づくり ■アジェンダ 21 の検証を通して 10 年をふりかえ	【セッション4】 <PRA 調査の準備> ■なぜ PRA (主体的参加地域評価法) で調査を行うか ■PRA 手法の体験	【セッション7】 <調査結果の発表> ■調査のまとめ ■発表
【セッション2】 <流れのあるプログラム体験> ■参加とは ■話し合いの共通基盤づくりとしてのアクティビティ体験 ■グローバルからローカルな課題へ	【セッション5】 <PRA 調査手法でコミュニティへ> ■調査のプランづくり ■調査の実践	【セッション8】 <ビジョンの共有—行動計画> ■PRA 調査の意義の確認 ■未来のビジョン ■行動計画 (説明)
【セッション3】 <課題の分析> ■調査に向けてグループづくり ■築きの手法を使って課題の共通理解を深める	【セッション6】 <PRA 調査手法でコミュニティへ> ■調査の実践	【セッション9】 <ふりかえり> ■プロセス・ファシリテーターの要素の検討 ■3日間のふりかえり

都立竹台高校「国際理解」のとりくみから・・・

ERIC が都立竹台高校 2 年生選択科目「国際理解」を外部講師として担当して 3 年目になります。今年度は週 5 日制の影響で授業数がこれまでの半分の週 1 時間になりました。参加型でグループ活動を行うと発表、相互評価、ふりかえり、まとめのいずれかが駆け足になったり、断念せざるをえなかったりすることが多く、2 時間続きのメリットを痛感しています。

今年度は新たに「学校と市民講師の連携」を目標に、それぞれの長所を生かした授業づくりを試みています。これは教授法のみにとどめず、学校という場やそれぞれのもつネットワークの活用を視野に入れてゆくつもりです。

1 学期は、「国」について改めて考え、「理想の国づくり」を試みました。また、生徒がこの講座ではスキル目標を立て、それを伸ばしてゆくことが大切な年間目標の一つであることを意識化できるよう、スキル目標の張りだし、達成度の自己評価などを行いました。グループ活動で協力がスムーズにできるよう、毎回グループ活動を行いました。役割分担をし、持ち回りでリーダーシップを発揮するなど成果が現われはじめました。

スキルは繰り返すことで伸ばしてゆけますが、時間数の削減に加え学校行事による休校が多々あるなかで、内容を積み重ねていくためには、従来の方法の変革も必要です。あるテーマについてインタビュー方式で全校生徒とインターラクティブな交流をもつなど、受講している生徒が主体的に動き、効力感を得られるような活動を取り入れようと模索しています。

2 学期、3 学期の内容は次回レッスンバンクに収録予定です。

授業風景～9 月 12 日の授業より～

夏休み明けの 2 学期第一回目の授業をちょっとご紹介します。

2 学期をつくる「みんなのアンケート」

2 学期の授業をクラスみんながみんなに対して、アンケートをしました。

<授業の流れ>

1. 今学期のスキル目標を紹介。
2. 「みんなのアンケート」：それぞれがアンケートについて 1 人で答えた後、自分が聞き取りを担当する項目について、なるべくたくさんの人に聞いてまわる。
3. 同じ項目を聞いてまわった人とグループになり、集めた情報の整理と分析を行う。

模造紙造紙にまとめ、発表。(実際は発表ができなかったため、廊下の壁に貼り出した。)

<アンケート項目>

- ① 1 学期の授業で、自分にプラスになったこと
- ② 昨年の米国 9.11 事件について
 - 1) その時の感情を色であらわすと何色? その理由は?
 - 2) 今の感情を色であらわすと何色? その理由は?
- ③ 未来社会のビジョン・
- ④ 2 学期はこんなことを / こんなやり方で学びたい!

<今日のスキル>

- 自分の意見をまとめる、● 情報を収集して整理する、● グループで活動する

生徒にとって切実な、そして未来につながるテーマとは何でしょう。中等教育に携わっておられる方、総合的な学習に取り組んでいらっしゃるみなさん、内容や方法の工夫、問題意識を共有しませんか。お寄せいただいたご意見は集約して ERIC メールマガジンでご紹介します。

■ カリキュラム開発室を一般公開しています。

ERIC では資料室にある蔵書などのほか、当センターのファシリテーターや研究員が使用しているリソースを一般の閲覧に提供しています。国際理解教育・環境教育・人権教育などの様々な分野にわたっています。総合学習を進める「カリキュラム開発室」として、整備中です。主体的な研究の場にお役立てください。

・アメリカ、カナダ、オーストラリア、イギリスなどから集めた英文資料 約 1000 点・日本語文献約 2000 点
・参加型教材関連の図書や教材 ・ERIC の出版物 ・国内外団体の出版物・ニュースレター多数

● 閲覧日：月、火、木、金 13 時～18 時(要予約) 料金：500 円(ERIC 資料のみ閲覧の場合は無料)

ジャンル・書名・
著者などによる
複数検索が可能

■ メールマガジン「ERIC NEWS」を配信しています。

現在不定期ですが(2001 年度は約 20 回配信)メールマガジンを発行しています。電子メールで活動内容などの詳細を、リアルタイムでお届けしています。ご希望の方は、ホームページより「ERIC 電子メールマガジン登録フォーム」をご利用ください。また、E-mail アドレスをお知らせいただければ登録いたします。

(なお、個人情報は厳重に管理されメールマガジン送信以外の目的では使用されません。)

■ ERIC スタッフ募集

事務局では、スタッフ、インターン、アルバイト、ボランティア、ファシリテーターなど、さまざまな形でお手伝いいただける方を募集しています。ERIC の運営に関わりながらいっしょに未来の教育を開いていきませんか。

インターン加納三代さんより 2002 年 7 月～8 月(2 ヶ月間)：GAP を中心に研究いただきました。有難うございました。私は大分県の人口 35,000 人の町に住んでいて、情報を得たり能力を高める教育訓練の場が十分に整っていません。例えば多くの地域の人は、勉強する・努力することが抑圧された環境にいます。そういう地域の人々と関わっていくために、伝えるスキル・ワークショップの運営能力を身につけることによって、より良いコミュニケーションを目指しました。3 週間で ERIC をはじめ NGO のスタッフと出会い、話し合いの輪(和)にはいり、刺激を受けたことは、地域で疲れ切った心に生気を与えてくれました。同じ興味や関心を地域の中でのいる数名の存在お中に、インターンで得ることが出来た経験を生かしていくつもりです。